



企業市民としての社会貢献活動で 地域と共に成長していく姿勢を伝える

宮城県 扇屋商事株式会社 「交通死亡事故抑止及び犯罪被害抑 止活動をはじめとする総合的かつ継 続的な社会貢献活動の推進」事業



扇屋商事株式会社
代表取締役 社長
石田道人さん

選考理由

扇屋商事株式会社の活動は実に多様で総合的だ。交通事故抑止、犯罪防止、東日本大震災孤児への支援、奨学金の支援、地域の清掃には多数の従業員が参加している。また仙台ハーフマラソン、楽天イーグルスへのサポートでスポーツ振興にも力をいれている。特に印象深いのは大きな災害を受けた関東地区での元気キャラバン、海岸線に沿って建てられ色とりどりの旗が波風をうけて美しくはためく。人々は元気を取り戻したことだろう。地元だから出来る地域貢献はホール従業員の人材育成にも役立っている。

社会貢献活動審査委員会
委員
永井多恵子氏



県を挙げての一大キャンペーン活動に 県内最大の遊技法人として継続協賛

宮城県仙台市に本社を置き、「パラディソ」の屋号で県内に19ホールを展開する扇屋商事株式会社は、2009年に続き、組合員ホール部門で2回目の最優秀賞となった。今回は「地域に密着した総合的社会貢献」事業での受賞だったが、それ以降も扇屋商事では安全・安心を基盤とした地域の活性化や環境、福祉の向上に向けた総合的な支援活動に継続的に取り組んでいる。

「地域と共に」（同社ホームページより）をキャッチフレーズに掲げているだけに、扇屋商事の考える地域貢献とは地元企業だからこそできる社会貢献であり、ただ機会を待つのではなく、「手が足りていない」という声を拾い上げ、そのうえで自分たちにできることがあれば参加させていた、という自発的なスタイルを行動指針としている。

今回受賞した事業のうち、交通死亡事故抑止活動とは、宮城県・宮城県警察本部・河北新報社の主催による「みやぎ交通死亡事故ゼロキャンペーン」への企画協賛であり、これは2014年から継続しているもので、2019年には270万円を協賛したほか、10月に宮城県庁で開催された交通安全イベント「ゼロ・チャレンジ・みやぎ2019」にイベント協賛して、近年、ブレーキとアクセルの踏み間違いによる事故が多発していることから、目と足を使った俊敏性を測定できるゲームや盲導犬と触れ合えるコーナーなどのブースを設けるとともに、盲導犬募金活動も実施し、同社のボランティ



交通安全イベント「ゼロ・チャレンジ・みやぎ2019」にイベント協賛してブースを運営



社員ボランティア16名が運営に参加



台風19号災害ボランティア活動として延べ174名が参加

ア16名がその運営にあたった。

また、犯罪被害抑止活動とは、宮城県・宮城県警察本部・河北新報社の主催による、特殊詐欺被害をはじめとする様々な消費者被害の撲滅を呼びかける「みやぎ消費者被害ゼロキャンペーン」への特別協賛だが、これは2016年から継続しているもので、2019年は350万円を協賛した。

災害ボランティア、様々な地域貢献活動、 青少年育成などに積極的に取り組む

上記2件以外にも、昨年の台風19号災害ボランティア活動として、大崎市、丸森町、角田市、石巻市、柴田町、大郷町において、10月から12月までの延べ35日間、延べ174名が参加して、被災住宅の復旧作業や被災ゴミの処理作業などにあたった。

さらに地域貢献として、地域清掃活動への参加（19ホール、延べ575回、延べ2,248名）、各種イベントのボランティア参加（5月「グランディ21 ひとめぼれスタジアムでのこどもの日1日無料開放」、5月「仙台国際ハーフマラソン」、6月「キリンチャレンジカップ」、8月「仙台七夕おもてなし隊」、9月「定禅寺ストリートジャズフェスティバル」に計65名参加）などを実施した。

また、青少年育成として、東日本大震災孤児を支援する「JETOみやぎ」、東日本大震災みやぎこども育英募金、グッチャー奨学金キャンペーン、公益財団法人ドナルドマクドナルドハウスチャリティーズなどの支援活動、南三陸町立戸倉小学校への継続的なスポーツ支援活動などを行った。このほかにも、関東地区で震災復興の願いを込めた元気のほりを掲げる「元気キャラバン」へのボランティア活動、公益財団法人日本盲導犬協会や公益社団法人みやぎ被害者支援センターへの募金協力なども実施した。